

会報 JAMT

JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

発行所
 一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会
 発行責任者 宮島喜文
 編集責任者 中井規隆
 〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号
 TEL (03) 3768-4722 FAX (03) 3768-6722
 ホームページ <http://www.jamt.or.jp>

- P1 平成26年度 高度先端の医学セミナー総括
 P2 高度先端の医学セミナー受講者の声から/平成26年度日臨技認定センターで実施した各認定試験について
 P3 甲状腺検査技師養成講座第3回講習会を開催
 P4 全国「検査と健康展」各地からの報告

平成26年度 高度先端の医学セミナー総括

日臨技では、平成25年度より日臨技が直轄で行う学術研修会として、①遺伝子・染色体、超音波等の先駆的な取り組みが要求される検査において、検査知識や技術を普及させるための「先駆的臨床検査技術講習会」と、②将来性・話題性が高く、臨床検査の領域に関連してくると想定される高度専門知識を習得できる学術セミナーを開催してきており、②については平成26年度より「高度先端の医学セミナー」と称して開催しています。

平成26年度での高度先端の医学セミナーは、学術企画委員の企画により、

第1回：平成26年10月26日

『造血器腫瘍の検査診断（形態、免疫、遺伝子）と個別化医療』

第2回：平成26年11月29日

『精度保証と第三者評価の必要性』

第3回：平成26年12月13日

『生殖医学に関する先端の医学セミナー』

第4回：平成26年12月21日

『管理者向け：カプセル内視鏡読影支援に向けて』

第5回：平成27年1月24日

『細胞治療分野における将来への展望』

の5つを開催し、基本的には日臨技会館を会場として開催してきました。

日臨技会館を会場とした理由として、会場費がかからないこともありますが、もう一つの理由として、日臨技会員であるにもかかわらず、日臨技会館がどこにあり、どのような会館かも知らない会員が多いことから、定員60名として当会館で開催してきました。なお、『細胞治療分野における将来への展望』については、講師の先生の日程と日臨技会館の空き状況が合わず、大井町にあるアワーズイン阪急 シングル館A、B会議室で開催しました。

いずれの高度先端の医学セミナーにおいても、参加者の評価は高くフロアーからも活発な討議がされていたようで、企画内容としては良かったと思っております。しかし、本年度の研修会広報が、日臨技ホームページでの掲載が主であったことと、掲載期間が短かったために、

会員全てに開催の周知ができず、参加者が募集人数の半数以下のセミナーがあり、来年度の改善検討課題となりました。

来年度以降の開催に当たっては、理事会での事業計画の承認を得たのちに、速やかに具体的な企画内容を決定し、できるだけ早い段階での広報に努めたいと思っております。広報手段としては、ホームページへの掲載のみならずJAMTマガジンへの掲載や、本年度できた支部学術部門のグループメールの活用、会員へのメールマガジンによる広報も検討しております。開催会場についても会員の参加しやすい形態として、全国学会での学術企画として実施することも検討していきたいと思っております。

また、将来的な学術研修としては、「何時でも」、「どこでも」研修可能なDVD研修やeラーニングの活用も視野に入れ、会員にとって有用で参加しやすい学術研修を企画していきたいと考えております。

会員の皆様におきましては、今後とも日臨技活動に対して、ご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

(副会長 松本 祐之)

～セミナー風景～



H26.12.13 (第3回)



H27.1.24 (第5回)

◆高度先端的医療セミナー受講者の声から◆

平成27年1月24日に開催された高度先端的医療セミナー『細胞治療分野における将来への展望』に参加させていただきました。

「iPS細胞を用いた輸血用血液製剤（血小板製剤）開発」では京都大学iPS細胞研究所（CiRA）の遠藤大先生からお話をうかがった。多くの研究の結果、iPS由来血小板はすでに作成されていた。しかし製品化の段階で、大量生産や濃縮過程などさらに多くの課題があることを知った。血液製剤の大量不足時代が近づいている今、先生方の研究が止血に欠かすことのできない血小板製剤の安定供給に寄与することは間違いなく、我々も今後の進展に注目していきたい。

「先端的細胞治療・再生治療において臨床検査技師に期待すること」では京都大学医学部附属病院輸血細胞治療部の前川平先生にお話をうかがった。細胞プロセッシングとして造血幹細胞移植のための細胞を始め、重症1型糖尿病に対する膵島移植や樹状細胞による細胞免疫療法のための細胞調整など遺伝子治療や再生医療の実際を知った。そこには厳格なGMPの作成・遵守が求められている。我々臨床検査技師はその作業過程の中で細胞調整や品質検査等の役割を担っており、日本輸血・細胞治療学会、日本造血細胞移植学会の「細胞治療認定管理師」のスタートを受けて認定資格を取得することが期待されている。

「血液事業の現状と将来」では日本赤十字社近畿ブロック血液センターの谷慶彦先生にお話をうかがった。ブロック化後の個別NATの導入や製剤を製品化する過程の自動化などの取り組みをお聞きした。また、医療用iPS細胞ストックに関する研究や造血幹細胞提供支援としての業務など今後を見据えた取り組みを教えていただいた。

血液製剤を患者に供給する我々の業務は、今後も多くの先生方の最先端研究に支えられて成り立っていくのだと再確認した。また、輸血部門を担当する臨床検査技師は、自施設で将来的にどのような活躍を期待されるようになるのか、様々な可能性を検討しておく必要があると感じた意義の深い研修会であった。

（埼玉県立がんセンター 伊丹 直人）

平成26年度

日臨技認定センターで実施した各認定試験について

平成26年度日臨技認定センターで実施した各認定試験が終了し、2月19日に開催された中央認定委員会にて各認定試験の結果が承認され、可否通知の発送が完了いたしました。受験者の皆様におかれましては多忙を極める業務の中、認定試験に向け受験勉強に励まれたことと思います。難関を突破され見事合格された方は、おめでとうございませぬ。今後、現場・地臨技・支部圏でスキルを發揮して頂ければ幸いです。また今回惜しくも力が及ばなかった方は、来年、再度の挑戦を何卒宜しくお願ひいたします。

今年度は新たに、認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師、認定認知症領域検査技師、認定病理検査技師の3分野が設立され計7分野となりました。更には平成27年度の認定救急検査技師の設立（日本救急検査技師認定機構からの継承）に向けて準備段階に入りました。

認定資格の充実に伴い、認定技師の皆様や今後認定技師を目指す会員の方々が利用しやすいようにホームページの再整備を手掛けたと考えておりますので、何卒宜しくお願ひ致します。

（専務理事 横地 常広）

今年度の認定センターで実施した各認定試験の結果は以下の通りとなります。

※認定一般検査技師

平成26年10月26日（日） 日本青年館
受験者 128名 合格者74名（合格率57.8%）
更新申請（更新対象者39名）
承認者35名 更新遅延申請承認者1名

※認定心電検査技師

平成26年11月30日（日） 損保会館
受験者 110名 合格者83名（合格率75.5%）
更新申請（更新対象者122名）
承認者88名 更新遅延申請承認者3名

※認定染色体遺伝子検査師

平成26年11月30日（日） 日臨技会館
受験者 染色体分野4名 合格者2名（合格率50.0%）
遺伝子分野10名 合格者6名（合格率60.0%）
更新申請 染色体分野（更新対象者30名）承認者18名
更新遅延申請承認者1名
遺伝子分野（更新対象者3名）承認者3名

※認定病理検査技師

平成26年11月30日（日） 東京大学 / 大阪府医師協同組合本部ビル（2か所同時開催）
受験者234名 合格者209名 合格率（89.3%）

※認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師

平成26年12月13日（土） 東京工科大学
受験者92名 合格者92名（合格率100.0%）

※認定認知症領域検査技師

平成26年12月20日（土） 日臨技会館
受験者3名 合格者3名（合格率100.0%）

※平成25年度コース 認定管理検査技師

受講者47名 修了者43名

※平成26年度コース 認定管理検査技師

受講者23名 修了者23名

甲状腺検査技師養成講座第3回講習会を開催

2011年（平成23年）3月11日（金）14時46分18秒、宮城県牡鹿半島の東南東沖130km、仙台市の東方沖70kmの太平洋の海底を震源とするマグニチュード9.0という日本周辺における観測史上最大規模の地震が発生した。それに伴って発生した津波により甚大な被害を受け、またその後の余震により引き起こされた福島第一原子力発電所事故は、被害はもとより大きな社会問題となった。当会は、東日本震災支援委員会を立ち上げ、福島県で行われている原子力災害による放射線の影響を踏まえた県民健康管理調査をクローズアップし、これまでも甲状腺超音波検査についての講習会を行ってきた。今回も「甲状腺検査技師養成講座第3回講習会」として開催された。

全国から集まった受講者は35名。講師である坪井医師は次のような講演をされた。甲状腺検査は事故当時18歳までの福島県民約36万人を対象に、20歳までは2年ごと、それ以降は5年毎に継続して検査を実施することとなっている。甲状腺自体は放射線体外照射に強い臓器のなかに入るが、放射性ヨウ素は吸引・飲食から体内に入り甲状腺に取り込まれ内部被曝を起こす。

内部被曝の放射線量が多い場合、量に比例して小児に甲状腺癌が発症することが判っている。福島第一原発事故で環境中に放出された放射線量は、チェルノブイリの7分の1と言われており、早期に原乳廃棄や食品流通の規制がおこなわれ福島の子供たちの甲状腺等価線量はチェルノブイリの子供たちに比べてはるかに少ないと考えられている。しかしながら、放射性ヨウ素131の半減期は約8日と短く事故当時の正確な被曝線量は不明で、長い半減期をもつセシウム等からの空間線量が高いままであることが不安を継続させる。甲状腺癌は頻度の高い癌で、その当時大規模調査の超音波スクリーニングでは1.5%、剖検で発見されるラテン癌は11～35%と報告されている。甲状腺癌による死亡率は10万人に0.5人であり、高頻度に見つかるものの原病死が低く、診断・治療が急がれる癌ではないことは注意が必要とされる。CTなどで定期検査を行うと放射線被曝による二次発癌の心配もあるので、CT・MRIより詳細に内部の構造変化を描出することが可能な甲状腺超音波検査は、長期にわたる繰り返し検査には最適であると話された。

また、本講習会の立ち上げから尽力され、自らも講師を務められた志村医師は、日常臨床にて遭遇しやすい甲状腺疾患の概要とそれぞれの特徴的な超音波像、びまん性

および結節性甲状腺疾患を認めた時の評価方法、さらに小児特有の異所性胸腺の所見も交えて基礎から臨床まで非常に分かりやすく講演された。

同日午後のハンズオン講習では、志村医師による概要（解剖や検査・測定の実際）、病変の評価方法等が説明された。日立アロカ（株）に協力いただき、超音波装置4台を使って受講者全員によるデモンストレーションも行われた。講師には、福島県で実際に行われている県民健康管理調査に参画する4名の技師をお招きした。受講者は、実際に装置を使い福島での一次検査で行っている甲状腺超音波検査の方法を熱心に学んでいた。



甲状腺検査技師養成講座 第3回講習会

日時：平成27年2月7日（土曜日）

場所：日本臨床衛生検査技師会館

福島県における県民健康管理調査・甲状腺検査について

東邦大学医療センター大森病院糖尿病・代謝・内分泌科
客員教授

福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター 特任
教授

坪井 久美子

甲状腺超音波検査の概要と甲状腺疾患の診断における役割

福島県立医科大学臨床検査医学講座教授・検査部長
放射線医学県民健康管理センター甲状腺部門副部門長

志村 浩己

甲状腺超音波検査（実地検査の注意事項）

福島県立医科大学臨床検査医学講座教授・検査部長
放射線医学県民健康管理センター甲状腺部門副部門長

志村 浩己

デモンストレーション

福島県立医科大学附属病院検査部

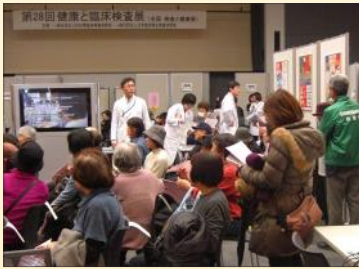
堀越 裕子、堀越 由紀子、羽田良子

東邦大学医療センター大森病院臨床生理機能検査部

八鍬 恒芳

全国「検査と健康展」各地からの報告

秋田県



県民ならびに被災者の方達の健康推進に寄与できました。また、アンケートから臨床検査技師の知名度も8割超えとなり、28回と回を重ねてきた事でリピーターも増え、知名度はアップしてきたものと思います。また、技師間の交流もでき、若手技師の参加も多く、これからの技師会運営に期待がもてました。臨床検査医会の会長、佐守先生の気さくながら熱いお人柄を感じ、地元の医師とのつながりも深める事が出来ました。また、学びの場は貴重な機会となりました。これを継続する事で、人材育成に繋がると期待がもてました。同時開催のがん・STI啓発にもつながったと考えています。

体験講演（がん体験患者による体験講演）は一般市民参加者の関心が高く、継続の要望があった。骨密度、血管年齢、自己血糖測定を通じて、健康であることを定期的に観測することの重要性を理解いただくことができた。

本企画をとおして臨床検査技師の職種を理解いただくことができた。

埼玉県



一般市民の方に日常行われている臨床検査について関心、理解を得てもらい、それらを通してがんや生活習慣病についても興味をもってもらうことができた。その結果、健康づくりへの意識高揚へつながると思われた。

「検査と健康展」をとおし都民の健康に対する関心の強さや骨密度検査や血管年齢検査など各種検査への関心の強さも認識できた。今後臨床検査技師の役割をさらにアピールすることにより都民の健康増進への関わりの重要性を強く感じる事ができた。

富山県



本年は、技師会主催でイオンホールとイーストコートで2会場同時に開催した。ショッピングセンターということもあり、多くの親子連れの参加を得た。健康チェック、健康相談を受けられた方には、健康維持について興味を持っていただくいい機会となった。また、体験コーナーとして顕微鏡をのぞいていただいたことと臨床検査についてのポスター展示をおこなったことで、臨床検査ならびに臨床検査技師の日頃の業務内容を知っていただく良い機会となった。

AIDSや乳がん予防の啓発活動では、クイズに参加してもらおうと同時に、エイズ被害の撲滅、乳がん検診受診を呼びかけ、エイズ・STI、乳がんの予防の啓発をはかった。

今回、アンケート結果から検査と健康展開催に予想以上の反響が得られ、県民の健康づくりの意識高揚に後押しできたこと、臨床検査、臨床検査技師を知って頂いたことは、開催目的を果たせたと考えられる。

県民の健康づくりや生活習慣病の早期発見のために、定期的な健康診断の重要性、臨床検査の正しい知識と普及・啓発を行い国民の健康づくりの意識の高揚を図ることが出来た。

乳がんについて正しい知識や自己検診・検診の大切さについて普及活動が出来た。また、他部門の団体との交流がとれ、一般市民への啓発活動から臨床検査技師および検査技師会への認知度を向上することが出来た。

山梨県技師会員15%の会員が、今回のキャンペーンに快く参加し、当技師会員の公共事業への関心の高さと団結を感じることができた。

今後も社会貢献と公益性をもつ継続的な事業へと発展していく必要があると感じた。

茨城県



東京都



山梨県



（編集後記） 3月になりました。新しい出会いと、そしてお別れが入り混じる季節がやってきました。人は春という季節にワクワクし、心が軽くなる気がします。一方で長い間同じ時間を過ごした方々との別れの時でもあります。普段当たり前前に顔を見て挨拶をし、笑ったり怒ったり喧嘩したり。でも失いかけて気付くことや失ってから解ることが多々あります。今ならまだ間に合うかもしれません。そして出来る限りの思いをこめて「ありがとうございました」と言いたいです。

【中井】